「謹賀新年」　あけましておめでとうございます。
新しい年もどうぞ数多くの皆様に、ふれあい文化センターをご利用いただきたいと思います。お待ちしております。

## じんけんコラム ホッと♡スペース

ひとにやさしい、じぶんにやさしい
あたたかい話題をとどけます！

### 1月30日（日）［毎年1月最終日曜日］は、世界ハンセン病の日

ハンセン病は、感染力は非常に弱いので、ハンセン病から回復した人や現在治療中の人から感染することはありません。しかし、昔、治療法がなかったころには変形など後遺症が残った人も多く、そういった外見や感染に対する恐れから、患者たちは何世紀にもわたって、隔離されたり、差別されたりしてきました。

元患者のみならず家族の方々に対しても極めて厳しい偏見や差別が存在していたことが認められ、令和元年のハンセン病家族訴訟において国へ賠償が命じられました。しかし、今なお差別を恐れ、補償申請をためらっている方々がたくさんいらっしゃいます。

ハンセン病に対して偏見をなくすために私たち一人一人が正しい知識をもつ必要があります。QRコードを読み取り、ぜひ動画をご覧ください。

【人権啓発動画】「ハンセン病問題を知る　～元患者と家族の思い～」

「令和３年度人権啓発作品募集」で当センター「絵手紙講座生」が、最優秀賞を受賞されました。作品をご紹介します。

新館２階エレベーター前ホールにて、「令和３年度人権啓発作品募集」で最優秀賞を受賞した小中学生のポスター作品及び一般作品（最優秀・優秀賞）を掲示中です。ぜひ、ご来館の折にご覧ください。（1月末日まで）

## ふれあい文化センター図書室

蔵書数約8000冊。人気本もあり、すぐ借りることができることもあります。どうぞ、ご利用ください。
開館日時：月曜日から土曜日（日曜、祝日は休館）午前10時～正午、午後1時～5時
貸し出し：２週間に２冊まで

【新着図書の紹介】

| 書名 | 著者 | おすすめコメント |
|---|---|---|
| 合唱　岬洋介の帰還 | 中山　七里 | 「音楽ミステリー」シリーズ最新刊！“どんでん返しの帝王”が長年温めていた作品ついに刊行。 |
| 老いの福嚢あっぱれ！ころばぬ先の知恵袋88 | 樋口　恵子 | ヒグチさん88歳。「ヨタ-ヘロ期」を明るく生きる！人生100年時代の痛快エッセイ。 |
| 老いる意味　うつ、勇気、夢 | 森村　誠一 | 人間老いれば、病気もするし苦悩する。老人性うつ病を克服した著者の老いの生き方。 |
| 代理母、はじめました | 垣谷　美雨 | もうタブーなんて言ってられない。子を抱きたい人々と女たちが手をつなぐ出産革命小説。 |
| 兇刃邸の殺人 | 今村　昌弘 | 入ったが最後、姿を見ることは二度とない。「屍人荘の殺人」シリーズ第三弾。 |

| 回覧 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

KAKEHASHI

# かけはし

## 1月号

広報誌第547号
2022.1.1　発行
熊本市配布文書　第２号
発行：
ふれあい文化センター
TEL　366－7310
西原公園児童館
TEL　371－4090

人権一口講座

「幸多き歳となりますよう」

十二月のある日、朝の通勤の時刻でした。車窓から遠くの方に小学校の通用門が見えてきました。歩道を手をつないで並んで歩く母子の姿が見えます。「一緒に登校かー。そんな事は自分には無かったな。」と小さい頃を思い返していると、車が渋滞に巻き込まれ、小学校の通用門の前あたりで停車したのでした。

黄色い帽子の女児が母親に抱きつき離れようとせずに大泣きしています。「嫌だ、嫌だ。」でも言っているような動きの口元です。母親は困った顔をして、一生懸命に女児の顔をのぞきこみながらなだめています。

すると、上級生の女児が「私が連れて行ってあげましょうか？」と声をかけ、すっとかがんで女児に声をかけ、顔をのぞきこみました。その途端、ぎゅっと手を握って通用門の先の校舎の方へと行ってしまった。それは、あっと言う間の出来事でした。

困っていた母親は、離れない我が子を道端で叱るわけもいかず、言葉を選んでなだめていたのに…。反して上級生の女児は「さ、みんなが居る教室に行くよ。おいで！」とでも、気を引く言葉かけをしたのでしょうか。

動き出した車の中で考えてみた。先ずは、「私が連れて行ってあげましょうか？」と言った上級生の存在。そこに困っている人がいた。自分が出来ることは何か？考えて行動が出来たことは素晴らしいと思います。家庭での躾でしょうか、学校での学びでしょうか。それとも地域社会での経験でしょうか。私が見た一瞬の光景は「つながり」を感じさせる何かしら「ほっ」とした時間にも感じました。

そうそう、黄色い帽子の女児はただの一度も振り返りませんでした。想像の域ですが、教室で待つクラスメートに会うことを楽しみにしていたのかもしれません。又は、上級生と手をつないで歩く楽しさが心地良かったのかも。いつもと違う経験の成せる技かも知れません。

令和三年の歳が終わり、新しく令和四年の歳が始まります。

思い起こしてみますと、旧年は皆様にとって、良い年であったり、いやぁそうでもなかったりと、“高い壁や低い壁”“山あり谷あり”と、きっと様々だったことでしょう。

けれど、皆様！　新しい年は「心機一転」明るく楽しい出来事などをいろいろと想像しながら過ごしたいものです。自ら壁を作りだし、寂しく苦しい思いを経験することがそうないように、と願っています。

短いメッセージ

みんなが私をよぶ声で　私はとても力が出るよ
笑顔のお返し　おはようみんな

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会　人権カレンダー
隈庄小学校四年　影山　咲愛さんの作品より